

チャレンジ項目記入数

5

分類	No.	チェック項目	基本	チャレンジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																	
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
組織・公正な取引	1	【内部管理体制】 ・経営理念及び経営目標を社内で共有、実践している。	●		経営者は従業員に対して会社のるべき姿である基本理念、経営方針、品質方針を掲示し、朝礼でも共有している。 従業員は自らの使命を理解し、やりがいを感じている。 会社のるべき姿の実現に向け、新しい事業に挑戦する文化が形成されている。								8	9								17	
	2	【法令遵守】 ・法令遵守の考え方が社内に浸透し、法令を確実に遵守する体制・仕組みを構築している。	●		主な業務が許認可を必要とする事業でもあり、コンプライアンス(法令や倫理の遵守、改正点)を、ラインワークを導入し、全社員或いは部門ごとにグループを形成しミーティング時と併せて、社内共有化している。																16		
	3	【公正な競争】 ・不正競争行為に関与しない方針を掲げ、社員に周知している。	●		一般的なルールである不正競争防止法を会社として遵守し、ミーティング時或いはラインワークにて従業員に対し、その重要性を発信している。										10							16	
	4	【組織体制】 ・企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対応する担当や専門部署などの体制を整備している。	●		社内において、事業活動が社会・環境に及ぼす正と負の影響を把握し、社長をトップとする連絡網を構築している。 代表取締役 ご部門担当取締役 ご本社管理部門																	16	
	5	【知的財産保護】 ・知的財産の保護に取り組んでいる。	●		知的財産の重要性の高まりを受け、自社の業務の中でどのように取扱うべきかを、従業員と共に知的財産ハンドブックをもとに研修を行っている。社内において、顧客の新規獲得や切替の際に知的財産権の侵害を行わないように説明している。社内的には、資格一覧表を部門ごとに管理し全社員の知的財産の保護に取り組んでいる。								8.2 8.3	9							16		
	6	【個人情報保護】 ・個人情報を適切に管理している。	●		情報漏洩リスク対策を施すと共に、個人情報の適正な取扱いの確保のため、社内にて意思疎通を徹底している。個人情報関連書類は、金庫等に保管管理している。																16		
	7	【ステークホルダーとの対話】 ・ステークホルダー(※)との対話により、自社の活動がステークホルダーに及ぼす影響を把握し、適切に対応している。(※利害関係者:消費者、投資家等及び社会全体)	●		主な取引先である各自治体、事業者のステークホルダーへ、日頃から役員及び担当従業員による意思疎通を図ることに努め、適切な事業活動と意思決定を行えるよう、社内的には部門或いは全体会議を都度行っている。																16	17	
	8	【サプライチェーン管理】 ・サプライヤー、事業パートナー等と、人権侵害の防止、生物多様性や生態系への悪影響の防止、倫理面での適切な対応(ハラスマント・汚職・贈収賄防止)について認識を共有し、共に取り組んでいる。	●							5		8		10		12	13	14	15	16	17		
	9	【災害や事故への備え】 ・地震や水害などの自然災害や事故などに備え事業継続計画(BCP)を策定し、訓練や見直しを行っている。	●										9		11		13.1					16	17
	10	【事業承継】 ・事業承継に関する検討・対策を行っている	●		株主総会及び取締役会を経て、現役員への株式譲渡が行われたが、将来に向けた承継のための後継者・新たな株式譲渡の検討等に取り組んでいる。	1	2		5		8		9			12	13	14	15	16	17		
労働・人権	12	【差別の禁止】 ・性別、年齢、障がい、国籍、出自などによる差別や各種ハラスメントを防ぐ体制が整備され、社内で差別や人権侵害がないことを確認している。	●		雇用、教育、昇進、福利厚生など雇用条件、職場環境において、性別、年齢、学歴、障がい、宗教、国籍等を理由に差別せず、人物本位、能力本位の採用を実施し、事業運営を行っている中、令和4年7月にベトナム人を採用したが、言葉上の意思疎通による危険が伴ないかけ、自主退職した。体制・運営の改善に向けて協議を重ねている。			4.3 4.4 4.5	5.1 5.2 5.5		8.5 8.7 8.8		10.2 10.3								16.1 16.2 16.7		
	13	【労働安全衛生】 ・業務中の事故等を防ぐため、安全で衛生的な労働環境の整備に取り組んでいる。	●		従業員の安全を確保しながら、業務の円滑な運営を図ることは、何よりも最優先させる課題であるとの認識のもとに、労働災害の防止に取組み、年1回の健康診断による健康管理と労働災害安全衛生会議を年1回実施し、更には安全管理講習会を受講している。		3					8.8											
	14	【公正な待遇】 ・雇用形態に関わらず、同一労働同一賃金等の原則に沿って対応している。	●		「職務の内容」(業務内容や責任の程度)の違いによって賃金の待遇について、正社員とパート社員に違いがあるが、雇用形態が異なることだけが差がつくことはない。福利厚生は同一である。				5.5		8.5 10.2 10.3												
	15	【ワークライフバランス】 ・働き方の見直し等により、過度な長時間労働を防止し、家庭と仕事の両立を図るためにワークライフバランスを推進している。	●		業務効率化による労働時間の短縮及び業務の互換性を高め、有給休暇等が取得しやすい体制を構築し、家事・育児、ボランティア活動へ参加しやすい環境を整えている。特に業務の互換性を高め、だれが休暇を得ても業務に支障がないよう、取得しやすい職場環境の整備に取り組んでいる。		3	5.5		8.5 8.8		10.3											
	16	【人材育成】 ・適切な能力開発、教育訓練の機会を従業員に提供している。	●		お客様の多様化するニーズに応えるため、会社の経費負担により、外部研修セミナーへの参加及び業務上必要な各種資格取得費用への支給に積極的に取り組んでいる。		4	5.5		8	9												
	17	【健康経営】 ・従業員が心身ともに健康を維持できるよう対策を講じ、生産性の向上等に取り組んでいる。	●		ミーティング時に交通事故の注意喚起や健康増進への取り組みの促進を行い、年1回健康診断、インフルエンザ予防接種経費全額補助、コロナ手当支給等を行って福利厚生制度の充実に取り組んでいる。		3				8										17		
	18	【ダイバーシティ経営】 ・多様な人材(女性、外国人、障がい者、高齢者等)が、十分に活躍できる環境の整備に取り組んでいる。	●		男性社員による産育休取得を実施している。職場復帰がしやすいように育休の終了前に会社側と話し合う復職面談の場を設けている。		4.4	5.1 5.5		8.5		10.2 10.3									16.7		
	19	【新しい生活様式への対応】 ・新型コロナウイルスをはじめとする感染症対策としても有効なテレワークや時差出勤、ウェブ会議等を導入している。	●			3					8	9.1		11	12								
	20	【デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進】 ・ICTやAIを活用したデジタル化やオンライン化等のDXの推進により業務の効率化やビジネスモデルの変革に取り組んでいる。	●			3	4				8	9.1		11	12								
	21	【プライト企業】 ・プライト企業に認定されている。	●				3	4			8	9			12								

チャレンジ項目記入数

5

分類	No.	チェック項目	基本	チャレンジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
環境	22	【環境汚染予防】 ・廃棄物や有害化学物質の適切な管理、及び処理に取り組んでいる。	●		当社は、環境インフラ系の業務を主たる業務として行っており、一般・産業廃棄物及びし尿の数量を把握し適切な管理及び処理に取り組んでいる。			3.9			6.3					11.6	12.4		14.1	15.1		
	23	【エネルギー】 ・電力やガソリンなど、自社のエネルギー使用量を把握し、その削減に取り組んでいる。	●		事業所内の電気は、全てLEDを使用している。 毎月の電力、水道、燃料使用量、廃棄物量のデータ把握に取り組んでいる。							7.3						13				
	24	【温暖化対策】 ・自社の温室効果ガスの排出量を把握し、排出の抑制に取り組んでいる。	●		業務用車両28台について、アイドリングストップの励行や急発進・急加速をしないなど、エコドライブに取り組んでいる。 二酸化炭素総排出量の前年比1%削減を目指し、毎月の電力、水道、燃料使用量、廃棄物量のデータ把握に取り組んでいる。		2.4					7.2 7.3 7.a					12.4	13	14	15		
	25	【生物多様性】 ・自社活動が環境(生物多様性や生態系等)に悪影響を及ぼさないよう配慮している。	●		事務消耗品にリサイクル材を使用した環境にやさしいエコロジー製品であるパイロットの環境配慮商品「BEGREEN」(ビグリーン)を使用して生物多様性保全に取り組んでいる。						6.6						14	15				
	26	【効率的な資源利用】 ・ごみを減らし、資源を有効的に繰り返し使うため、発生抑制(リデュース)、再使用(リユース)、再生利用(リサイクル)に取り組んでいる。	●		再利用(再生用紙、裏紙の利用)を実施している。								9.4				12.2 12.4 12.5		14.1	15		
	27	【水の管理】 ・熊本の水資源の質と量の保全に取り組んでいる。	●		社内掲示等により節水や汚水等の適切な処理を実施している。		2.4					6.1 6.3 6.4 6.6 6.b				11.5			14.1 14.2 14.3	15		17
	28	【環境に配慮した製品等】 ・環境に配慮した製品の購入や製品の開発・製造に取り組んでいる(グリーン購入、リサイクル製品認証等)。	●		再生用紙利用を実施している。 紙の使用量を管理できる複合機への交換や、グリーン購入法適合商品の使用拡大に取り組んでいる。								9.4				12.4 12.5	13	14	15		
	29	【食品ロスの削減】 食品ロスの削減に取り組んでいる。	●			1	2					6.4					12.3		14	15		17
	30	【緑の保全管理】 ・壁面緑化や植栽など緑の創出と保全、管理に取り組んでいる。	●														11.6 11.7		13.1 13.3		15	
	31	【エネルギー効率の見直し・再生可能エネルギーの利用】 ・高効率機器の導入等によるエネルギー使用率の改善またはや再生可能エネルギーの利用に取り組んでいる。	●									7.1 7.2 7.3 7.a		9.4		11.5		13.1 13.3				
	32	【森林資源の循環利用に向けた取組み】 ・"伐って、使って、植えて、育てる"の持続的な森林利用への取組みを推進している。	●									6			9.4		11.3 11.4 11.5	12.2	13		15	
	33	【植林等の取組み】 ・植林等の森林整備活動に取り組んでいる。	●									6.1 6.3 6.6					11.3 11.4 11.5	12.2	13		15	
	34	【海洋ごみ】 ・環境中で分解しにくいプラスチックの使用削減等、海洋ごみ、海洋汚染の防止削減に貢献している。	●														12.2 12.5		14			
	35	【環境に配慮した交通手段】 ・電車やバスなどの公共交通機関の利用や、電気自動車や水素自動車などの環境にやさしい自動車の使用を促進している。	●											9.4		11.2		13.1 13.3				
	36	【2050年CO2排出量実質ゼロへの取組み】 ・2050年CO2排出実質ゼロを目指し、計画的にCO2削減に取り組んでいる。	●									7.1 7.2 7.3 7.a		9.4		11.6 11.a	12.8	13				17.2

チャレンジ項目記入数 5

分類	No.	チェック項目	基本	チャレンジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																	
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
製品・サービス	37	【製品・サービスの安全性と品質】 ・製品・サービスの安全性や品質を確保する仕組みを構築している。	●		浄化槽及び貯水槽の巡回法定検査・定期検査における意見等や、廃棄物処理の際に発行するマニフェストを社内で共有化し品質を確保する取組を行っている。			3.9						9			12.4						
	38	【ユニバーサルデザイン】 ・障がい者、高齢者に特定せず、誰もが利用しやすいサービス提供や環境整備を行っている。	●		事務所内の配置換えを行い、動線を改善し、社員全員が働きやすい環境づくりを行い、社員同士のコミュニケーション活性の場となる休憩室でもあり、商談の場にもなるフレキシブルなスペースを設けている。 だれもが使いやすいユニバーサルデザイン化された事務文具用品等に切り替えるために、社内での購入依頼を総務課へ一元化し、発注するようにしている。									9.1	10	11.7					17		
	39	【地域資源】 ・地産地消を推進し、熊本県産の原材料を優先的に使用している。	●				2.3 2.4					7.3	8	9		11.a	12.3	13	14	15		17	
	40	【木質化の取組み】 ・自社の執務室等の天井や床、壁等の内装や外壁等に木材を使用し、木質化を推進している。	●								7						12.2	13.1		15			
	41	【社会課題解決】 ・社会課題を解決するための製品・サービスの開発・展開に取り組んでいる。	●			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
	42	【攻めの農林水産業】 ・地域における産学官連携等による新たな品種開発を促進するなど、地域レベルで農林水産業の生産能力向上に取り組んでいる。	●				2.3 2.4						8.2	9.2 9.4		11.a	12.2		14	15		17	
持続可能な社会・地方創生	43	【地域への参画】 ・自治活動や福祉活動、防災活動や寄付、ボランティアなど社会貢献活動に積極的に取り組んでいる。	●		従業員に対し、居住する地域の活動に参加するよう奨励している。 地域事業者として、地域の防災活動及び自治会活動に参加している。 地域が抱える課題解決のため、寄付を行っている。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
	44	【防災・減災・レジリエンス(自助)】 ・過去の地震や水害などの災害を教訓に、事業への被害を防止・軽減するため、ハザードマップを確認し、避難行動計画や事前防災対策を進めている。	●		事業所において、防災備蓄及び防災グッズを常備している。 災害時にはライワークを活用し、従業員にハザードマップを周知したり、安否確認等をしている。				4								11.5		13.1		16		
	45	【防災・減災・レジリエンス(共助)】 ・地域防災の担い手としての認識を持ち、防災士、水防団員、救助救急等の必要な技能を持つ社員を育成したり、地域消防団の活動に参加している。	●		地域の消防団へ2名の職員が加入し、地域防災活動を行っている。 向山小学校に隣接し、「向山校区防災団体連絡協議会」のメンバーとして、いざというときの地域防災の一担い手として、自社敷地を避難所として開放している。 避難救助訓練等に積極的に参加している。	1.5		3	4							10.2	11.5		13.1			16	17
	46	【防災関連商品の開発・販売】 ・防災関連商品の開発・販売を促進している。	●											9		11	12	13.1					
	47	【SDGsの普及啓発】 ・環境問題や人権問題をはじめとした社会課題の解決に向け、SDGsの普及啓発や教育機会の提供を行っている。	●		SDGsに関する社内研修を実施しHP、名刺に掲載、ピンバッジを配布したりしたので、役職員間でのSDGsへの意識が浸透しつつある。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
	48	【インターンシップ等の受け入れ】 ・職場体験、インターンシップの受け入れ、職場関連授業の実施など、地域の児童や学生に対し、職業の学びの場を提供している。	●		向山校区内の地域児童の職場体験(見学)を積極的に受け入れている。				4				8.6		10.2							17	
	49	【若者の地元定着等】 ・若者の県内就職を促進する取組みを行っている。	●		令和6年4月に県内の高校新卒者2名を雇用している。				4.4				8.5 8.6									17	
	50	【農林水産業の担い手確保】 ・子どもに対する農林水産業教育を行うなど、地域における農林水産業従事者の確保に取り組んでいる。	●			2			4.3 4.4 4.5				8.6		10.2		12	13	14	15		17	

・基本項目は25項目全てに、チャレンジ項目は25項目のうち5項目以上に具体的な取組みを記載してください。
 ・「企業」や「社内」とあるものは、NPO法人や個人事業主等はそれぞれの形態に応じて、読み替えてください。
 ・【予定】の項目は1年以内に【〇年〇月実施】として、具体的な取組みを記載のうえ、提出してください。